

聖グレゴリオの家

「臨床音楽セラピスト養成科」 2021 年 募集要項

Die berufsbegleitende Ausbildung “Klinische Musiktherapie“

- ・セラピスト養成コース
- ・基礎 1 年コース

教育方針

音楽療法の中でもとりわけプロフェッショナルな技法である心理療法的な“サイコダイナミック音楽療法 Psychodynamische Musiktherapie”のメソッドを中心に、多様なニーズに対応できる専門性の高い音楽療法士を育成する社会人コースです。この音楽療法は、欧州とくにドイツ語圏において健康保険が適用されるスタンダードな非薬物療法として広く社会に認知されています。

このコースの目標は、音楽家としてのアイデンティティを持ちながら心理療法士として心のケアに携わることのできるスペシャリストの育成です。修了生は、カウンセリング技法と芸術の非言語的アプローチを活用する音楽療法士として医療、福祉、教育などの幅広い分野で活躍することが期待されます。さらに音楽療法を研究する者として抽象的な思考力や理論的見識を深めることも求められています。

カリキュラム

ドイツ国立ハンブルグ音楽演劇大学音楽療法科との連携により、ドイツに長期留学することなく同等レベルの音楽療法士を日本で輩出する“心理療法的音楽療法士”の専門養成プログラムです。カリキュラム全 120 単位を最短 3 年 6 か月で履修します。

セラピスト養成コースを希望する人は、受講生自身がクライアントになる“自己体験セラピー”の参加が必須となり、ドイツ音楽療法協会の規定により個人療法(50 時間以上)、グループ療法 (50 時間以上)、スーパービジョン (50 時間以上) の 3 タイプのトレーニングが課せられます。このうちグループ療法はカリキュラムに含まれますが、個人療法とスーパービジョンは通常授業とは別枠で通い、その参加料は自己負担となります(授業料に含まれません)。また、日本にはないメソッドのために海外で現場経験を得るための「ドイツ病院実習^(注1)」や海外教授陣による「ドイツ合宿研修(通訳付き)^(注2)」の受講を奨励します。

基礎 1 年コースは、卒業を目指さない人でも、セラピスト養成コースと同じ教室で授業を受けることができます。編入も可能です。

(注 1) ドイツ病院実習にかかる実習費は基本的に無料(渡航費・滞在費等は自己負担)

(注 2) ドイツ合宿研修(約 5 日間)は 2 年毎に開催予定(参加は任意で費用別途)

【授業科目】 *科目は追加・変更される場合がございます

音楽療法概論・音楽療法メソッドと応用分野、即興演習と聴取、精神分析的発達心理学、カウンセリングの基本・心理療法の理論と実践、倫理、文献講読、研究方法と論文指導、音楽学、器楽奏法（ピアノとギター）、初心者のための音楽理論、パーカッション、声のセラピー、身体ワークと感性トレーニング、医学、精神医学、心療内科、実習指導、グループワーク、スーパービジョン、相互セラピー、特別講座等

学年	曜日	目標
1 年次	・通常授業：月曜（年 28 回） ・精神医学：土曜（年 6 回） ・特別講座：土曜（年 4 回ほど）	各科目の基礎を学び、自己を見つめて気づきを深める
2 年次	・通常授業：月曜（年 28 回） ・精神医学：土曜（年 6 回） ・特別講座：土曜（年 4 回ほど）	分析力とセラピストとしての感受性を磨いて、セッションで起こる事象を理解する
3 年次	・通常授業：月曜（年 28 回） ・特別講座：土曜（年 4 回ほど）	クライアントとの関わりを通して実践力を高める
最終学年	コロキウム：月曜	論文執筆と修了試験準備

* 授業時間帯は状況により変動します。目安として月曜日 9:15-17:30、土曜日 09:30-15:30 くらいです。

* 内容や時間等は諸事情により変更になる場合がございます *コロキウム（colloquium）＝口頭発表と討論

*カリキュラム外の「ドイツ語初級文法クラス」は希望者のみ受講できます（費用別途）

「セラピスト養成コース」と「基礎 1 年コース」について

- セラピスト養成コース

120 単位を修得して卒業を目指します。

- 基礎 1 年コース

好きな科目（3 科目）および精神医学講座を 1 年間受講できます（ただし土曜特別講座には参加できません）。修了証は発行されません。セラピスト養成コースに編入可能です。

修了証

全課程修了者には提携校ドイツ・ハンブルグ国立音楽演劇大学（Hochschule für Musik und Theater Hamburg）の名称を含む修了証および聖グレゴリオの家音楽セラピスト認定証が授与されます。

入学要項 【第3期生】 セラピスト養成コース

- 授業開始日：2021年4月5日（月）
- 課程：2学期制（前期4月～7月、後期9月～12月） *1月～3月は各自実習期間
- 授業：月曜（年28回）、土曜（年10回ほど）
- 課外（別途料金）：講習会・自己体験セラピー・ドイツ病院実習・ドイツ研修
- 学費：入学金 5万円（税別）
授業料 年額55万円（税別）*最終学年の半年間は授業料・設備費とも半額
設備費 年額5万円（税別）
- 定員：約12名
- 入学資格：原則として以下の条件を満たす方
 - ① 大学卒業以上または2年以上の高等教育（短大・専門学校等）を修めた方
 - ② 音楽経験があり自分の想いを音で表現できる方が望ましい
 - ③ 就労経験のある方が望ましい
 - ④ ドイツの実習や研修に参加できる方が望ましい
 - ⑤ 個人療法・グループ療法の経験者が望ましい
- 面接日：2021年1月9日（土）10:00より **2次面接日：2021年3月6日（土）午前**
- 願書受付期間：2020年10月1日（月）～12月4日（金）まで（必着）
2次受付期間：2021年2月1日（月）～2月26日（金）まで（必着）

入学要項 【第3期生】 基礎1年コース

- 授業開始日：2021年4月5日（月）
- 課程：2学期制（前期4月～7月、後期9月～12月）
- 授業：月曜（年28回）
- 課外（別途料金）：講習会・自己体験セラピー・ドイツ研修
- 学費：入学金 5万円（税別）
授業料 年額35万円（税別）
設備費 年額5万円（税別）
- 定員：若干名
- 入学資格：原則として以下の条件を満たす方
 - ① 大学卒業以上または2年以上の高等教育（短大・専門学校等）を修めた方
 - ② 音楽が好きな方
 - ③ 就労経験のある方が望ましい
- 面接日：2021年1月9日（土）10:00より **2次面接日：2021年3月6日（土）午前**
- 願書受付期間：2020年10月1日（月）～12月4日（金）まで（必着）
2次受付期間：2021年2月1日（月）～2月26日（金）まで（必着）

<受講科目について>

授業科目（医学、心理療法、音楽療法論、音楽講座&ゲシュタルト療法、即興演習）から3科目を選択。精神医学講座は受講可。土曜特別講座には参加できません。

面接日（セラピスト養成コース・基礎1年コース）

- 日時：2021年1月9日（土）10:00より

*開始時刻は願書出願の順番で行います。ご希望の時間帯がある方はご相談下さい。

- 場所：聖グレゴリオの家
- 料金：無料
- 面接日の内容：

(1) 面接（約10分）

面談および音楽演奏（任意曲を3分程度、楽器やジャンルは不問）

(2) 作文（約30分）

1つのテーマ（例：音楽や人生観など）をベースに自己紹介文を自由に書いて頂きます。

入学に関する個別相談（予約制）

場所：聖グレゴリオの家

予約：電話またはメールで事務室にお申込み下さい。

入学申込方法

下記の書類を郵送または事務室窓口に提出して下さい。

1) 入学申込書

2) 履歴書（写真付き） *市販の書式

締切日：2020年12月6日（金）まで（必着）

提出先：〒203-0004

東京都東久留米市氷川台2-7-12

聖グレゴリオの家 臨床音楽セラピスト養成科入学係

Tel. : 042-474-8915

Fax. : 042-474-8832

Mail: info@st-gregorio.or.jp

<メイン講師>

^{うちだひろみ}
内田博美（音楽療法）：ドイツ認定Diplom 音楽療法士、国立音楽大学ピアノ科卒業、横浜国立大学大学院教育学研究科修了、ミュンスター大学音楽療法科修了。同大学院博士課程在学中に著作『音楽療法の本～もう一人の自分と出会う』（2011年アルク出版企画）を出版。2010年から東京を中心に講師およびセラピストとして深層心理的音楽療法の指導と普及にあたる。ドイツ音楽療法センター代表

^{きのあつこ}
紀野温子（音楽療法）：ドイツ認定Diplom 音楽療法士、同志社女子大学音楽学科声楽コース卒業後、ドイツSRHハイデルベルグ大学音楽療法科修了。在学中、児童思春期精神科、高齢者病棟、障害者施設等で研修を積み、介護施設や音楽教室で音楽療法を行う。卒業後はザールランド州の心療内科で常勤音楽療法士として働き、セラピーに声や、身体表現を積極的に取り入れる。在独中は音楽療法士として働く傍ら、教会や介護施設等で歌のコンサートや参加者体験型の即興コンサートを定期的に行う。

^{こみやだん}
小宮暖（音楽療法）：米国認定音楽療法士（MT-BC）、分析的音楽療法士（AMT）、桐朋学園大学ピアノ科卒業、ニューヨーク大学大学院音楽療法科修士課程修了。2005年より分析的音楽療法の個人開業（現在：横浜）桐朋学園、国立音楽大学 非常勤講師 訳書：ケネス・ブルシア【編著】『音楽心理療法の力動』

^{すずきことえ}
鈴木琴栄（音楽療法）：米国認定音楽療法士（MT-BC）、分析的音楽療法士（AMT）、日本音楽療法学会認定音楽療法士、2016年1月までモロイ大学音楽学部音楽療法学科講師、コロンビア大学付属病院児童・精神科に在職。ニューヨーク大学大学院音楽療法学科修士課程修了。レズリー大学表現アーツ療法学科博士課程修了。NYノードフ・ロビンズ音楽療法センターにて、障がい児や脳卒中後の成人などを対象に実践を積み上級資格を取得後、育成クラスの助教を務める。2012年より成人を対象にした音楽心理療法や音楽療法士のためのスーパービジョンも行う。共著に『新しい芸術療法の流れ クリエイティブ・アーツ・セラピー』、共訳書『音楽中心音楽療法』

^{まなべ}
真鍋かおり（音楽療法）：GMTC 認定音楽療法士、洗足学園大学音楽学部音楽学科卒、横浜国立大学教育学部臨時教員養成課程修了。知的障害者入所施設、地域作業所勤務を経て現在は障害者生活介護施設に勤務。2012年よりドイツ音楽療法センターで学び、2017年 GMTC 認定音楽療法士資格取得

^{まえだせつこ}
前田節子（心理療法）：MBACP(英国カウンセリング・サイコセラピー協会) 認定カウンセラー、UKRCP(英国公認カウンセラー、日本ゲシュタルト研究所にて長年ワークショップの通訳に従事した後、自らセラピストになるべく渡英。英国Place2Be（児童臨床）、マリリボンカウンセリング・センター（クライシス・リスナー及びカウンセラー）、ロンドン大学エグハム校（スチューデント・カウンセラー）の経験を積む。精神分析に基づく心理療法（サイコダイナミック・カウンセリング）を踏まえた上で催眠、ゲシュタルト療法、イメージ・ワークを取り入れた手法を使ったカウンセリング、カップルズ・カウンセリング、グループ・セラピー及びスーパービジョンを行う。

江夏 亮（心理療法）：公認心理師、日本ゲシュタルト療法学会スーパーバイザー、東京大学卒業後、日本鋼管（現NKK）中央研究所へ入社。新製品開発の功績により社長賞受賞。退職後東京ゲシュタルト研究所のチーフマネージャー、プログラム開発に従事。1990年渡米。トランスパーソナル心理学研究所を始めとしてアメリカ西海岸を中心に様々なトレーニングを受け、夢のセッションや講義も行う。1993年帰国後現在まで、心の健康相談室の代表を務め、個人セッション、グループワークを行う。心理学コンサルタントとしても幅広く講演、研修、雑誌の原稿執筆と活躍中。プロのカウンセラーや心理学の専門家のためのセラピストとして信頼を集めている。現在はメンタルヘルスの企業研修も積極的に行う。2004年から2018年まで、米国の臨床心理学の名門カリフォルニア臨床心理大学院（略称CSPP）日本校の准教授及び実習ディレクターを兼務する。代表著書は「自分でできる夢分析」

牧野 纈（ピアノ）：1970年東京藝術大学卒業後、ドイツ国費交換留学生制度の奨学生としてハンブルク国立音楽大学に留学し、以後合計12年間ドイツに滞在する。この間にイタリア・セレーニョにおけるポッツォーリ国際ピアノコンクールで銀賞受賞、フランス・コルマルにおける国際室内楽コンクールで第1位優勝を果たす。ソリストとしての演奏活動は日本国内のほか、ドイツを中心としてヨーロッパで多くのリサイタル、オーケストラとの共演など多く行っている。又室内楽の演奏活動も多く、ハンブルク・ピアノトリオの一員としての演奏など、弦楽器、管楽器、声楽、多種の組み合わせで行なっている。帰国後は東京藝術大学講師、洗足学園大学教授、愛知県立芸術大学教授として長く後進の指導にあたった。笈田光吉、北川正、金澤希伊子、安川加壽子、マックス・エッガー、コンラート・ハンゼン、ヴラド・ペルルミュテルの各教授に師事。

相澤 美緒（音楽）：桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部ピアノ科を卒業。ピアノを奥村洋子、安川加壽子氏に、室内楽、伴奏法を岩崎淑氏に師事。現在桐朋学園大学附属子供の為の音楽教室講師として後進の指導にあたる。

猪野 駿（ギター）：ニューヨークのニュースクール大学卒業。在学中にはニューヨークのReggie Workman, Hal Galper, Nir Felder, Gilad Hekselman, Lage Lundなど第一線のジャズミュージシャンから最先端の音楽を学ぶ。ニューヨークでリーダー、サイドマンとしてギグを経験。2019年にスイス、ベルンのジャズフェスティバルに出演。現在首都圏を中心に主にジャズのライブなどで活動中。

松下 映夫（医学）：医学博士。東北大学大学院理学研究科（修士）を修了した後、慶応大学医学部・専任講師（薬理学）、国立癌研究所（米国）・訪問博士研究員、東レ株式会社医薬研究所・研究室長、独立行政法人（現：国立研究開発法人水産研究教育機構）水産大学校・教授などの研究・教育職を経験し定年退職後は関東リハビリテーション専門学校の非常勤講師として、また、千葉大学発ベンチャー企業である株式会社サーマスの最高顧問として生理学の講義や技術指導（食品の栄養生理機能）を行う。

植村 智子（精神医学）：精神科医。慶応義塾大学医学部卒業、井之頭病院精神科医長、精神保健福祉法精神保健指定医、日本精神神経学会専門医および指導医。

^{あいざわたかし}**相澤 隆（研究方法）**：西洋史学者。東京大学名誉教授。東大文学部西洋史学科卒、ドイツ・ヴュルツブルク国立大学留学を経て同大学院博士課程満期退学。1990年東大教養学部助教授、1996年同大学大学院総合文化研究科助教授、2000年より教授。2018年退職後に名誉教授就任。専門は中世ドイツ史。

<海外講師および協力講師>

Prof. Dr. Eckhard Weymann（音楽療法）：ハンブルグ国立音楽大学音楽療法科主任教授、ケルン国立音楽大学でピアノを学んだ後に音楽療法マスタークラスに参加。R. テュプカと共に形態学的音楽療法の創始者のひとり。臨床即興、理論構築、スーパービジョンの専門家。

Prof. Dr. Rosemarie Tüpker（音楽療法）：元ミュンスター国立大学音楽療法科主任教授、ケルン国立音楽大学でピアノを学んだ後に音楽療法マスタークラスに参加。形態学的音楽療法創始者のひとりであり、ドイツ語圏音楽療法界では二大理論家の一人と言われている。

Prof. Karin Holzwarth（音楽療法）：ハンブルグ国立音楽大学音楽療法科教授、同大学でリトミック音楽教育を卒業後にオーストリアとドイツで音楽療法を学ぶ。精神科医療施設・緩和ケア・学校教育などの分野で音楽療法を実践。2010年から同大学で教鞭をとる。

^{ゆ か}**キカート結佳（音楽療法）**：ドイツ認定Diplom音楽療法士、ドイツ音楽療法協会認定音楽療法士、心理療法専門ハイルプラクティカー、明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業、SRHハイデルベルク大学音楽療法科修了。在学中に障害者社会支援施設、発達障害児クリニックセンター、児童思春期精神病院での長期実習を経験。卒業後2009年よりハンブルク近郊の成人精神科病院 Heinrich Sengelmann Klinikenにて専属音楽療法士として勤務。2012年ハンブルクに音楽療法室こころを開室、個人療法とグループ療法を提供する。2013年より定期的にドイツ音楽療法センターにてワークショップや講演を行う。2018年3月より上記精神科病院に属するデイクリニックでもグループ療法を担当。その他、ドイツ語圏のアジア人音楽療法士のためのワークグループの責任者も担う。

^{かまたなみ}**鎌田菜美（音楽療法）**：ドイツ認定Diplom音楽療法士、声楽家。国立音楽大学声楽科を卒業後、ドイツのミュンスター国立大学音楽療法科入学。多田房代氏のアシスタントとして障害者施設の音楽療法に携わる。卒業後はミュンヘン郊外の精神科病院にて常勤音楽療法士として勤務、精神科及び心療内科をはじめ、高齢者病棟、依存症病棟、児童思春期精神科、司法精神科、脳神経科で音楽療法を行う。また、ミュンヘン日本人会の教養講座や日本国内でセミナーやワークショップを開催、即興演奏を軸とした音楽心理療法セッションや自己分析、声と心のつながりを探る「声のセミナー」には定評がある。ドイツではウクレレデュオ「coconami」のヴォーカルとして活躍しこれまで3枚のアルバムを発表、ドリス・デリエ監督の映画作品「フクシマ・モナムール」は女優として出演。

その他